

# 目 次

序 文	iii
まえがき	v
<b>第 1 章 数学の香り</b>	<b>1</b>
1.1 ロイヤル・ハマー	11
1.2 奇術に立ち戻ると	19
<b>第 2 章 グルッと回って</b>	<b>21</b>
2.1 デブロイン系列を使った奇術	22
2.2 さらなる発展	31
<b>第 3 章 これは何にでも効くのか</b>	<b>37</b>
3.1 視覚情報処理	38
3.2 暗号の作成	42
3.3 生命の核心へ	47
3.4 デブロイン系列はすばらしいが，生活の糧になるのか	53
<b>第 4 章 万有巡回系列</b>	<b>59</b>
4.1 順序の問題	60
4.2 読心術に対する観客の印象	66

4.3	万有巡回系列の詳細	68
<b>第5章</b>	<b>ギルブレスの原理からマンデルブロー集合へ</b>	<b>77</b>
5.1	ギルブレスの原理	78
5.2	マンデルブロー集合	91
<b>第6章</b>	<b>一糸乱れぬシャフル</b>	<b>105</b>
6.1	計算機による読心術	109
6.2	完全シャフルの数理	115
6.3	モンジュ・シャフルとミルク・シャフルの数理	119
6.4	ダウンアンダー・シャフルの数理	122
6.5	すべてのシャフルはつながっている	123
<b>第7章</b>	<b>最古の数理娯楽？</b>	<b>129</b>
7.1	奇跡の予言	131
7.2	当時のトリック数の推定	143
<b>第8章</b>	<b>易占のマジック</b>	<b>147</b>
8.1	易経とは	149
8.2	易経による予言	151
8.3	確率と易占	154
8.4	易経のトリック3種	157
8.5	易占の確率	167
<b>第9章</b>	<b>山あれば谷あり</b>	<b>169</b>
9.1	数学的ジャグリング記法	170
9.2	ジャグリングを始めよう	178

<b>第 10 章 数理奇術師列伝</b>	<b>189</b>
10.1 アレックス・エルムズレイ	194
10.2 ボブ・ニール	200
10.3 ヘンリー・クライスト	216
10.4 スチュアート・ジェームス	226
10.5 チャールズ・ジョーダン	235
10.6 ボブ・ハマー	251
10.7 マーチン・ガードナー	261
<b>第 11 章 さらなる高みへ</b>	<b>275</b>
<b>第 12 章 秘密について</b>	<b>281</b>
註 釈	289
訳者あとがき	301